

D. R. F (Danchi Revolution Factory) の活動視察

●日 時：平成25年12月13日（金） 14：00～16：00

●場 所：星ヶ丘地下鉄ギャラリー

【D. R. F (Danchi Revolution Factory) について】

昨今地域のコミュニティのあり方が見直されている中、人と人の関わり方の改善の原点となるの一つの形態が「団地」だと考えています。

けれども老朽化や住人の高齢化によりステイタスが失われつつあります。

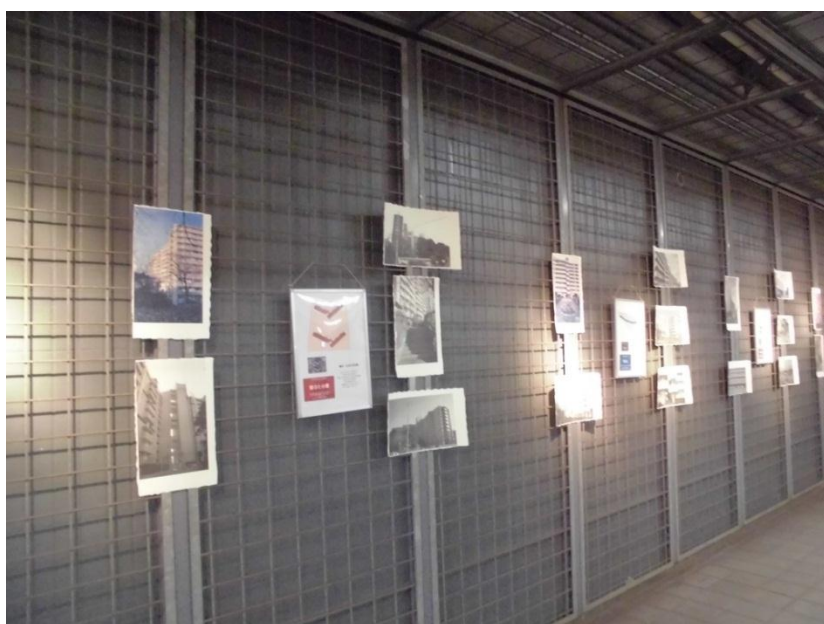
そこで、見方を変え、利便性、豊かな緑、ゆとりある空地、隣棟間隔や公園等、現代の生活にゆとりを与えるという団地の魅力を見出し、見失っている人と人との関わりを取り戻し、共に住もう暮らしのあり方の一例として団地という居住空間の魅力を伝え、団地に暮らす人々はもとより新旧世代の方々との関わりを活性化していきたいと考えて活動をしています。

【活動の様子】

団地のありさま・魅力を伝える写真展

12月13日（金）D. R. F (Danchi Revolution Factory) の活動視察に行ってきました。星ヶ丘地下鉄構内のギャラリーでの写真展ということで、数名の人がギャラリーに行き交って足を止めて写真を見ていました。

展示は、構内のグレーの金属的なメッシュの空間を活かし、シンプルな展示の仕方がギャラリーの雰囲気とマッチしてしました。



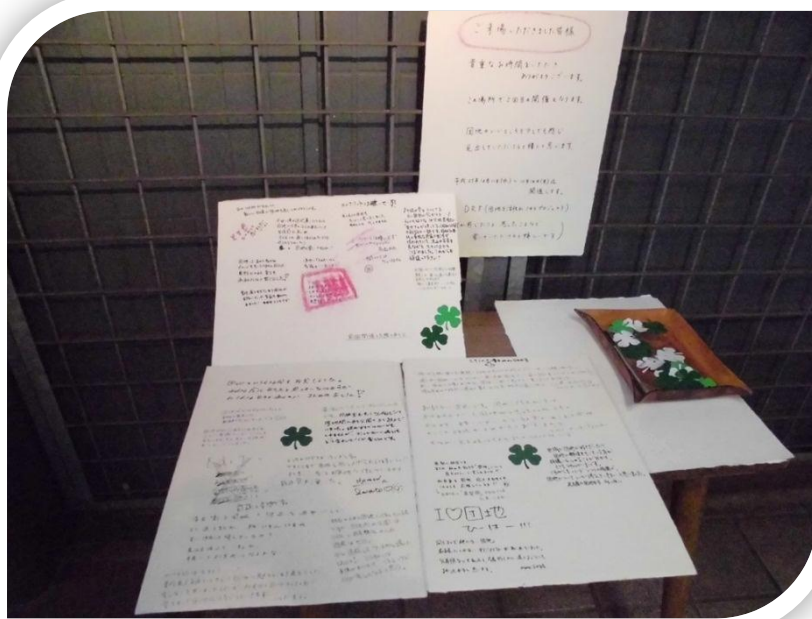


個々の団地の有り様や、魅力をテーマ化することにより、その団地の独自の魅力が伝わりやすく展示してありました。



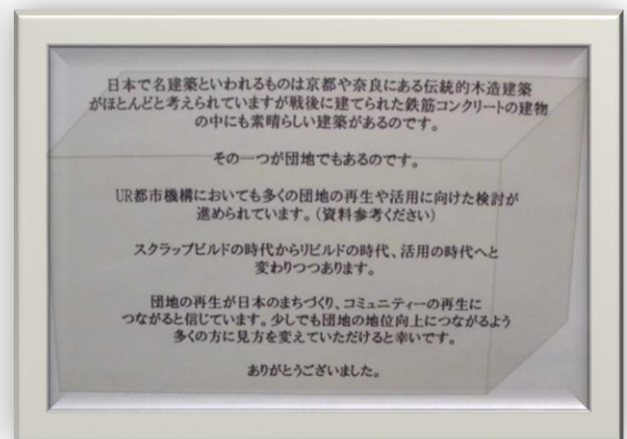


来場者の一言コーナー



団地の美しさ

団地のコミュニティとしての
機能を評価し、写真が
展示されています



団地の魅力を象徴するシンボルマークの四葉のクローバー。



団地にはその魅力がいっぱい。特に緑や自然がいっぱいです。

そのなかでもどこの団地でも目に付いたのがクローバー。

四葉のクローバーは「幸せを届ける」という意味をもっており、団地を通じて大切な何かを見出すことで一人でも多くの人に幸せを届けられること、幸せを導けることを目標にしています。



ぴょんちゃんの感想

打ちっぱなしの地下鉄構内という場所柄を活かしたモノクロームの写真やあえて、額を使わない展示の仕方がデザイン性にあふれ、目を惹いていました。

団地という形態を古いものではなくをひとつの自然と共存する発展型のコミュニティをとらえそれを発信するという取り組みがとても新鮮に感じました。

地下鉄の構内という空間で、特定の人をターゲットにせず、広く一般人に向け問題提起や、魅力発信をされているところに共感しました。

これからも、団地の新しい魅力を発信されるよう取り組みに期待します。



PECoの感想

日本の高度成長期時代に建設された団地は、利便性、機能性に優れ、建設当時、敷地内に植えられた樹木も成長し、緑豊かな魅力ある空間となっております。一方では、建物の老朽化や住民の高齢化により、従来のコミュニティが崩れ、団地の存在感が薄れているという現状もあります。

そんな団地を第三者的視点でとらえ、地下鉄ギャラリーという公共空間を使うことにより、団地に対する興味や意識の変化をもたらすことで、団地の魅力を再認識させ、コミュニティの再形成と活性化に着目したこのプロジェクトは、これからのまちづくりに新たな可能性を秘めていると感じ、今後の取り組みに大いに期待させられました。